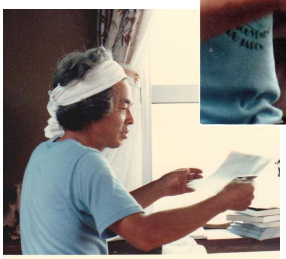
♪百里♪♪の歌声は平和の証し

1976年、清岡皓さん作詞作曲

♫　百里の歌　♫

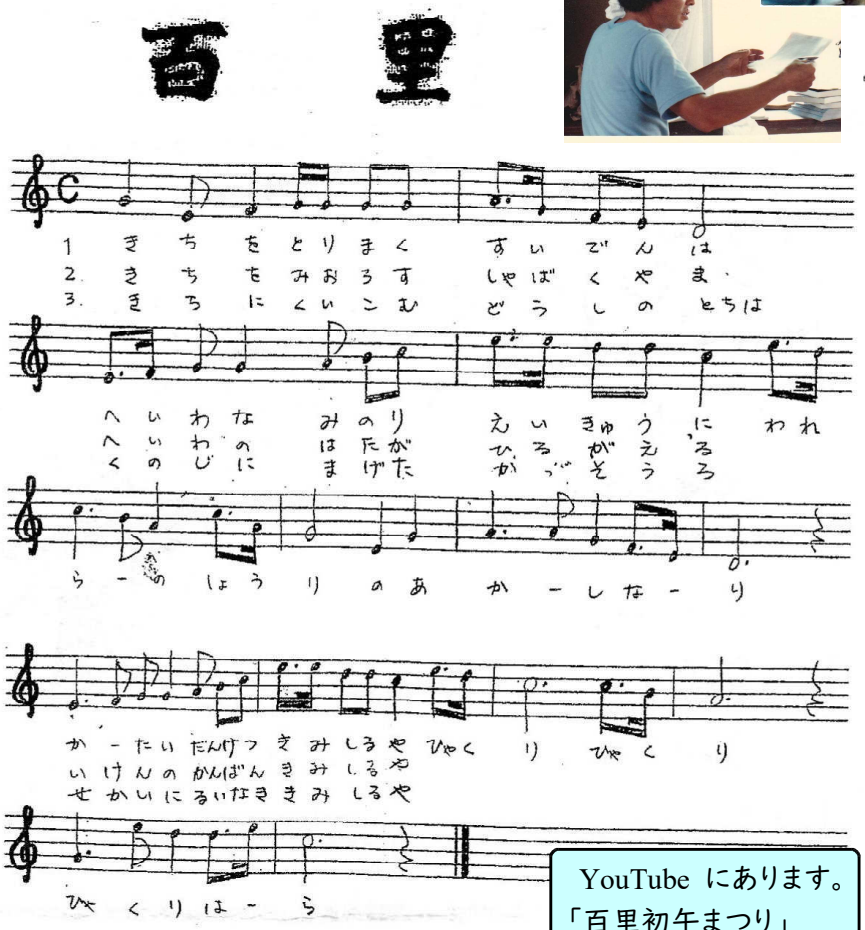
東京大田平和委員会の清岡皓さん、1976年作詞・作曲です。

その歌詞は百里農民の魂と運動の核心をついており、百里を知る人ぞ知る人でなければ作れません。内藤功百里弁護団長が“わが人生にとって最大の励ましの歌”といって毎年初午祭で大声で唄っております。



♪　取っておきの1枚
在りし日の清岡さん

百里平和農園でサツマイモを植えたあと、みんなで楽しく語り合っています。1980年前後の写真です。まさに平和なひとときでした。



YouTube にあります。
「百里初午まつり」
で検索。

百里の歌

作詞・作曲：清岡皓、1976年

1　基地を取り巻く水田は
　平和な実り永久に
我等の勝利の証しなり
　固い団結　君知るや
百里　百里　百里原

2　基地を見下ろす射爆山
　平和の旗がひるがえる
我等の勝利の証しなり
　違憲のカンバン君知るや
百里　百里　百里原

3　基地に食い込む同志の土地は
　くの字に曲げた滑走路
我等の勝利の証しなり
　世界に類なき君知るや
百里　百里　百里原

百里の会

自衛隊は憲法違反

第11号　2020年9月25日

一般社団法人
百里の会
茨城県水戸市見川 5-127-281
Tel 080-9457-6381
E-mail hyakurip@gmail.com
HP　https://hyakurip.web.fc2.com

海軍の飛行場だった百里

茨城には多くの軍事基地が

1　関東平野は全国一広い平野

山がない平野は気流がおだやかで飛行士の教育訓練には好都合でした。特に茨城や千葉は平地林が多く基地がつくり易かったので、他県に比べて軍用地の面積は広かったのです。

“7つボタンは桜に錨”の歌にある土浦海軍航空隊の予科練、ペリリュー島で玉砕した水戸歩兵2連隊、満蒙開拓義勇軍の内原訓練所、風船爆弾放球基地の北茨城市などは一般によく知られています。関東には陸海軍の航空基地が64カ所ありましたが、その4分の1は茨城にありました。関東平野の筑波山（877M）の筑波下ろしも訓練には差し支えなかったようです。

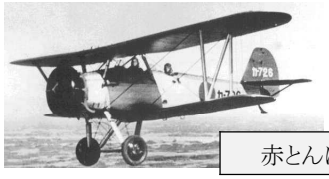
茨城の海軍および陸軍の航空基地についての特徴のひとつは、霞ヶ浦航空隊以外は日本が本格的に軍事的侵略をはじめた満州事変（1931年）以後につくられたこと。ふたつはその多くが特攻訓練・出撃基地であったことです。

海軍航空隊基地が8カ所、陸軍航空隊基地が5カ所つくられましたが、敗戦が色濃くなるにつれ、新たな部隊がつくられたり移転されたりして、一般的には分かりづらい面があります。以下、県内にあった8カ所の海軍航空基地と5カ所の陸軍飛行場について、『茨城県の戦争遺跡』（伊藤純郎編、平和文化、2008年）によって記して見ます。

2　県内の海軍航空基地

①　霞ヶ浦海軍航空基地（現在の阿見町）

1921年（大正10年）に開隊。陸上・水上飛行機の教育訓練が行われた。1941年から戦闘機・練習機の製作・修理・補給する第1海軍航空廠となる。戦後は開拓地として払い下げられた。現在の茨大農学部、東京医科大学霞ヶ浦病院などがある地域である。



赤とんぼ（九三式中間練習機

茨城県の戦争遺跡位置図

『茨城県の戦争遺跡』（伊藤純郎編、平和文化、2008年）より

②　土浦海軍航空基地（現在の阿見町）

1940年（昭和15年）霞ヶ浦航空隊から独立して開隊。予科練習生（予科練）教育を担当。予科練への入隊者は全国で24万人いたが、卒業者は10分の1の狭き門だった。1943年以降、戦況悪化と燃料・訓練用資材不足で1945年には全面停止となる。「7つボタンは桜に錨」の歌で慕われた。現在は「武器学校」として90式戦車などが敷地にあり、雄翔館（記念館）には大西瀧次郎中将や特攻隊員の遺品などがあり見学に値する。

③　筑波海軍航空基地

（現在の笠間市旭町・以前の県立友部病院）

1938年（昭和13年）に霞ヶ浦海軍航空隊から独立。練習航空隊としてパイロットの養成を目的に創設。1945年2月には64人が神風特別攻撃隊に編成され、訓練が行われた。県立友部病院は航空隊の本部が置かれていた。

④　百里原海軍航空基地（現、小美玉市）

1939年（昭和14年）筑波海軍航空隊百里原分遣隊（1938年設置）から独立して開隊。パイロット教育を行なう。1945年3月からは沖縄での特攻訓練に参加する。

1954年自衛隊が創設されると、翌年から基地誘致の動きが起こり地元では激しい反対運動が起こる。百里基地反対運動である。

⑤　谷田部海軍航空基地

（現在のつくば市上横場周辺）

1939年霞ヶ浦航空隊から独立して開隊し、練習航空隊として陸上機パイロット教育を担う。

士官176人、兵員3400人の収容施設を持ち、第10航空艦隊に編入され制空および特攻部隊として戦力化された。

⑥　鹿島海軍航空隊基地（現、美浦村大山地区）

1938年、霞ヶ浦南岸に開隊。アジア太平洋戦争開戦後は、内地の防衛、パイロットの教育、鹿島灘における対潜作戦を任務とし、1000名を超える大規模な基地となった。

⑦　北浦海軍航空基地（現、潮来市大生地区）

1942年、水上飛行機の訓練を目的に設置。1945年には水上飛行機による特攻が開始された。5月には解隊する。

⑦　神ノ池海軍航空基地（現、鹿嶋市光地区）

敗戦1年前の1944年2月に開隊した練習航空隊であった。この年の10月に百里原航空隊に創設された人間ロケット桜花の721部隊が1カ月後の11月7日に神ノ池に移転してきた。1945年1月から「桜花」（神雷部隊）の特攻訓練が始まり、3月沖縄へ出撃するがアメリカの艦載機の迎撃に合い全機が海中に沈んだ。

戦後はMSA協定にもとづき自衛隊の対潜水艦哨戒機基地の建設誘致が進められたが、地元の強力な町ぐるみの反対運動で阻止された。

3　陸軍の飛行場

①　水戸南陸軍飛行場（現、水戸市住吉町・酒門町）

1940年8月、水戸陸軍航空通信学校が設立され、航空通信の教育訓練、防空および特攻要因の訓練をおこなった。1380メートルの滑走路の格納庫11棟、通信・給油・修理などを行なった。

②　水戸（東）陸軍飛行場

（現在の常陸那珂港、国営海浜公園など）

1939年につくられ翌年、水戸陸軍飛行学校が配置され本土防空戦闘を担う飛行場となる。1944年には常陸教導飛行師団が編成される。その後特別攻撃隊が編成された。この広大な1182ヘクタールの跡地は戦後占領軍に接収され米軍射爆訓練場となった。しかし、1957年8月のゴートン事件（低空飛行で親子を殺傷する）や銃弾の誤射など事故が頻発し、反対運動が起こり、1973年日本政府に全面返還された。その後跡地は常陸那珂港（1998年）、国営海浜公園（1991年）や那珂湊運動公園、工業団地などに変身した。

③　鉾田陸軍飛行場（現在の鉾田市大竹地区）

1940年12月、鉾田陸軍飛行学校が開設。飛行場は1570および1300メートルの2本の滑走路がつくられた。1944年6月、本土防衛のため鉾田陸軍飛行学校は鉾田教導飛行師団に改編された。この教導隊から陸軍初の特別攻撃隊となる“万朶隊”が編成された。はじめ24隊が編成され、うち11隊67人がフィリピン・沖縄作戦に参加、戦死。現在跡地はハウス農家などの農地となっている。毎年10月の第3日曜日は万朶隊隊長の岩本益臣大尉の慰霊祭が行われている。

フィリピンへ出発直前の万朶隊、前列左から3人目が隊長の岩本益臣大尉

④　西筑波陸軍飛行場（現在のつくば市作岡地区）

1942年にオランダ領インドネシアに投入されたバレンバン落下傘部隊の訓練基地であった。1943年以降は滑空歩兵部隊と滑空機操縦部隊の2つの陸軍部隊が所属した、滑空飛行部隊（グライダー部隊）の発祥の地であった。

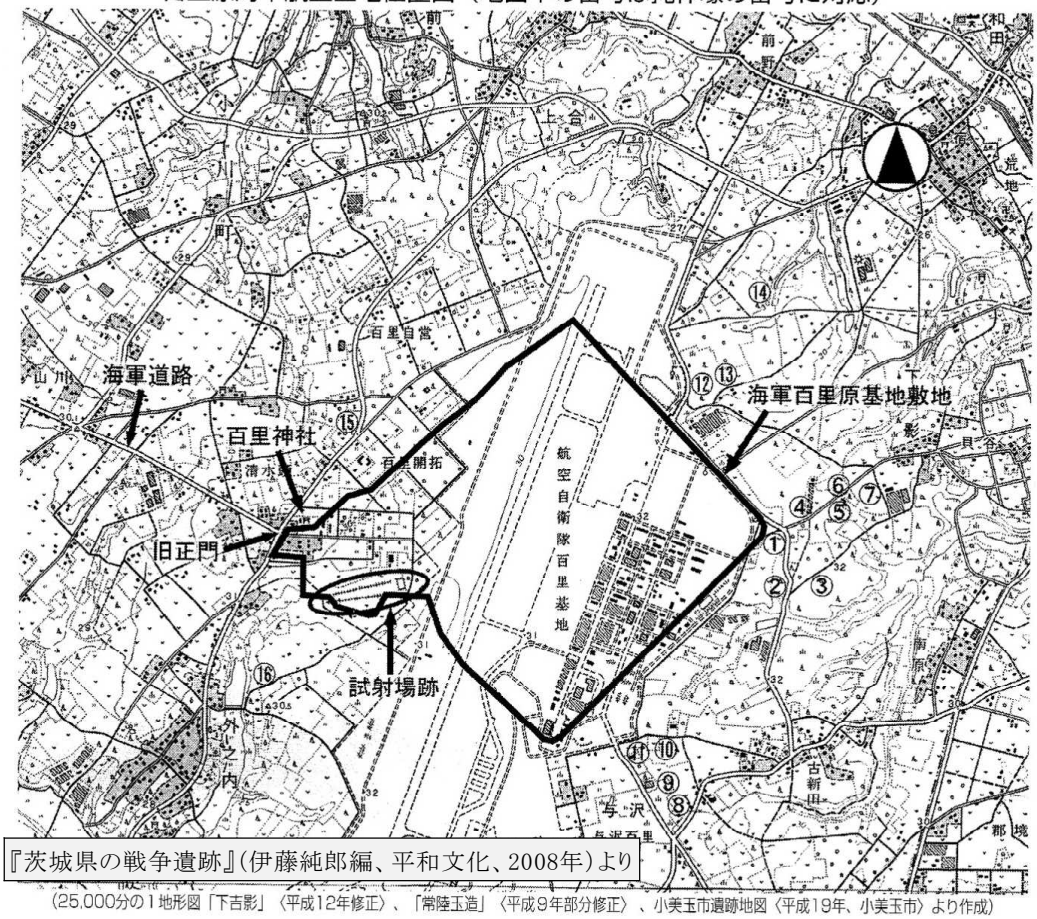
⑤　下館陸軍飛行場（現在の関城町藤ヶ谷）

1939年熊谷陸軍飛行学校下館分教場として、1941年には宇都宮飛行学校下館分校となり少年飛行兵の訓練基地となった。1945年には「第57振武隊」「第58振武隊」の特攻機が飛び立った。

4　特攻最後の出撃基地となった百里

☆“下総国には九十九里浜という広い海岸がある”との自慢話に、水戸黄門さまが「常陸の国にも九十九里浜に勝る百里ヶ原がある」と言ったことに百里ヶ原の名の由来があるというのはよく知られた話です。それはまた、広大な平地林でもあったのです。百里の長老故高塚惣一郎さんはよく“馬が迷い込んで帰ってこねえんだよ”と話していました。そんなことから戦前から飛行場に適していると言われていました。案の定、昭和13年1月、橘村から白河村にかけて230町歩の飛行場をつくる工事が始まりました。そして筑波海軍航空隊の一部が分かれて1938年12月15日に筑波海軍航空隊百里原分遣隊が誕生しました。この分遣隊の任務は飛行練習生を攻撃機のパイロットに養成することにありました。通称“赤とんぼ”と呼ばれた2枚翼の中間練習機でした。この「分遣隊」から独立して翌39年（昭和14年）12月1日に百里原海軍航空隊となり実用機の操縦訓練を開始し1942年12月ごろから予科練生（特攻隊員）の訓練が開始されます。敗戦の45年2月には百里基地もグラマン戦闘機の攻撃で隊舎が炎上しました。

百里原海軍航空基地位置図（地図中の番号は掩体壕の番号に対応）



『茨城県の戦争遺跡』（伊藤純郎編、平和文化、2008年）より

（25,000分の1地形図「下吉影」〈平成12年修正〉、「常陸玉造」〈平成9年部分修正〉、小美玉市遺跡地図〈平成19年、小美玉市〉より作成）

☆　1945年3月末から百里原海軍航空隊は特攻の菊水作戦（神風特別攻撃隊）に参加します。神風特攻隊の名で知られる、戦闘機もろとも敵艦に体当たりする特攻作戦は米英の軍人を驚かせました。外国ではSuicide　Attack(自殺攻撃)と言っています。この特攻作戦は1945年2月21日から沖縄で始まり日本敗戦の8月15日まで続きます。海軍機千数百機（死者2068人）、陸軍機九百数十機（死者1917人）となっています（『特攻』御田重宝、講談社、1991年）。

また、「昭和20年3月末に沖縄作戦が発動されるや百里原航空隊からも菊水作戦（神風特攻隊）に参加、4月6日第1正統隊10機を皮切りに・・・沖縄周辺の敵艦隊に対して還らざる「体当たり攻撃」を敢行、百里原航空隊からの特攻機出撃は6月3日をもって終了します。しかし、犬吠崎東方海上まで進出してきた米艦隊機動部隊に対して1945年3月頃、百里原で再編成された第601海軍航空隊（杉山部隊）が直接百里原基地から8月9日、13日、15日（終戦日）までの3回、神風特別攻撃隊第四御盾隊と命名され特攻出撃が行われています。80余名が散華し特攻出撃には終止符が打たれました（『戦後71年目を迎えて』藤田幹泰、2016年）。　百里基地が特攻隊最後の出撃となったことは記憶しておきましょう。

☆　**陸軍の初の特攻隊・万朶（ばんだ）隊、鉾田教導飛行師団で編成**　海軍の神風特攻隊はよく知られていますが、一方陸軍の特攻隊が最初につくられたのが茨城にある陸軍鉾田教導師団で1944年10月21日に編成された万朶隊でした（万朶の桜・多くの桜が垂れ下がった意味の万朶の桜からもじった）。しかし、万朶隊は11月21日の出撃を前の11月5日にマニラ上空で米軍機グラマンの襲撃を受け岩本益臣隊長以下4人の将校が死亡する痛手を受けます。